2022年度事業報告

**Ⅰ．概況**

新型コロナウイルス感染は終息には至っていませんが複数回のワクチン接種が浸透したことを背景に社会・経済活動はコロナ前の状況に戻りつつあり、競技かるたの大会も計画通り開催されるようになりました。

主催大会においては全日本選手権大会（４月）、全国女流選手権大会（６月）、中学生選手権大会（８月）がそれぞれ３年ぶりに、全国選抜大会（３月）は４年ぶりに開催することができました。また、全国高等学校選手権大会（７月）も昨年度は個人戦が１年生の参加を制限しての開催でしたが、本年度は団体戦が全都道府県から61校、個人戦は2,000名規模の参加を得て盛況に開催することができました。また公認大会もほぼ計画通り各地で開催されました。

**Ⅱ．重点実施事項の活動実績**

以上の状況の下、当協会は中長期ビジョンに定めた「大半の市民が競技かるたに親しみを感じ、常時競技かるたを楽しんでいる愛好者は現状の２倍に拡大している」状態を10年後には実現させることを目標に、以下の５項目を重点に事業遂行をはかりました。その実績は以下のとおりです。

**１．安全・健康の確保**

2021年10月に制定した「練習会・大会開催ガイドライン」をコロナ感染状況の変化に対応して７月、２月、３月（施行は4月）と改定を重ねました。その結果年度末には、基本的感染対策である不織布マスク着用、手指消毒の実施、換気の実施を除き、ほぼコロナ禍前での運用に戻すことになりました。

**２．多角的・多面的情報発信の強化**

**(1)効果的情報発信方策の研究**

専門事業者（広告代理店）から広報活動のあり方についてヒヤリングし、当協会情報発信活動として実施すべき活動方策を以下のとおり整理しました。

1. タイトル戦などの重点大会では必ずプレスリリースを複数回発信する。
2. 重点大会を契機に出場選手情報の積極的開示も実施しメディアとのコンタクトを深め、新聞記事化・テレビ番組化を仕掛ける。
3. ＳＮＳ（特に、ツイッター、インスタグラム）での情報発信を活用する。

以上の方策を実行した結果、１月の名人位・クイーン位決定戦においては現地で20社を超えるマスコミからの取材があり52件の報道、２月に開催した第４回ちはやふる小倉山杯ではのべ83件のメディア掲載、のべ12件のテレビ・ラジオ番組、地元PR誌での紹介など従来にない告知活動を展開することができました。

**(2)ツイッターによる情報発信**

懸案となっていたＳＮＳ活用として公式ツイッターアカウントを11月に開設し情報発信を開始しました。

**３．普及活動の拡充**

**(1)初心者層の開拓**

８月に五色百人一首協会の全国大会の場で名人位・クイーン位決定戦の動画を視聴してもらい当協会の活動及び競技かるたの世界の紹介・ＰＲをはかりました。

**(2)多様な層が競技かるたを楽しめる企画**

高齢者でも楽しめる競技として考案した「テーブルかるた」の試行大会を６月に開催し好評を得ました。今後ミドル層だけでの大会などそれぞれの世代・層で楽しめるルール・制度を継続して企画してまいります。

(3)中長期課題である初心者教室のあり方検討

競技かるた体験会・入門教室などについての各会の取組み状況についてのアンケート調査により情報整理を行いました。本情報をさらに精査し、競技人口拡大に不可欠な初心者教室のあり方検討を進めてまいります。

**４．運営・事業の見直し**

**(1)Ａ級分割制度の導入**

かねてから懸案であったＡ級の参加人数が64人を超える場合の分割制度の導入を実施しました。

**(2)全国大会の抜本的制度設計見直し**

計画に沿って大会の長時間化回避をはかる施策導入、目的に応じた級別大会見直し等、アフターコロナ時代に相応しい全国大会の抜本的制度設計見直し検討をすすめました。

**(3)全国高等学校選手権大会開催形式の見直し**

参加人数の大幅な増加により正常な運営が困難になっている全国高等学校選手権大会（個人戦）について、関係団体と協議を重ね2023年度からの見直し案をとりまとめることができ、会場確保やスタッフの負担軽減につながることが期待されます。今後更なる改善を目指し来2024年度以降の実施に向けた方策を検討してまいります。

**５．事業継続を見据えた資金確保策の検討**

**(1)スポンサー企業探索方法の研究**

上述の専門事業者（広告代理店）からのヒヤリングで得られた有効なスポンサー企業探索方法についての知見は以下のとおりです。

1. 大会協賛募集時に大会だけでなく競技かるたや当協会活動についても情報発信する中でミートする企業を探索する。
2. 当協会役員・会員の個人的なつながりから可能性ある企業を選定し広告代理店に個別折衝をさせる。

上記得られた知見を名人位・クイーン位決定戦に活かして大会協賛募集活動を展開した結果、今年度は昨年度比1.5倍の協賛を得ることができました。

**Ⅲ．専門部の活動実績**

　専門部毎の活動実績は以下のとおりです。（太字はⅡにあげた重点実施事項に関わる事項）

|  |  |
| --- | --- |
| 部 門 | 活 動 実 績 |
| 広報部 | ■ホームページ(HP)の毎週土曜更新の体制を継続し、お知らせや大会情報、各かるた会の情報を掲載した。■ホームページの問合せに対応し、会員や競技かるたに関心がある一般の方を逃がさないように各会に繋ぎ普及に努めた。■大会ML管理と随時更新を行った。■大会ペ－ジ新設・**SNS活用として公式Twitterアカウント開設**し、大まかな仕組みを作り情報発信した。■インターネット中継実施。(全日本選手権・女流選手権・高校生大会6チャンネル・名人戦2チャンネル・ちはやふる小倉山杯)■タイトル戦を中心に速報対応。(全日本選手権、女流、高校生、東西予選、国民文化祭、挑戦者決定戦、名人戦、ちはやふる小倉山杯、全国選抜大会)■主催大会を共催する小倉百人一首文化財団、ちはやふる基金、法人会員先の講談社、中継委託先NHKエンタープライズ等と親交を図った。■**広告代理店と契約締結し、広く広報活動を効果的に進める、協賛募集について探索を実施した。(プレスリリース、協賛募集関連)** |
| 普及・指導部 | ■**初心者層の開拓**　**８月に五色百人一首の全国大会の場で競技かるたのＰＲを行った**。■マナーブック11月に増刷し、今後活用について各会に働きかけた。■**初心者指導に係るアンケート**　**初心者指導の現状について、各県の状況を調査するため２月にアンケートを発出し３月に回収した**。 |
| 競技かるた部 | ■**Ａ級の参加人数が６４名を超えた場合の分割制度を導入した**。■**公認全国大会の制度設計の見直しを図った**。■**世代別（テーブルかるた）のリハーサル大会を実施した**。■**コロナ禍における練習会・大会開催ガイドラインの改訂をおこなった**。■専任読手選考会を実施した。■初段認定大会については運用方法を改訂し今年度も継続実施した。■読手指導員制度の実施要項を決定した。■専任読手(横谷)の新方式による「ありあけ」音源の収録をおこなった。 |
| 審査部 | ■初段認定大会が継続的に開催され、初段申請の約半数が初段認定大会によるものとなった。■開催される大会が増えたこと、公認大会の開催増加や会場使用制限の緩和したこと、段位制度移行による年度末の駆け込み等により、昇段者数は、前年度比大幅に増加した。 |
| 企画部 | ■文京区との連携・文京区主催ドリームマッチ（名人VSクイーン、2022年5月22日（日））に協力。・「一般社団法人全日本かるた協会と文京区との相互協力に関する協定」を締結。■かるた展望の発行　第75号（2022年8月発行）　　第76号（2023年2月発行） |
| 調査研究部 | ■令和４年１月開催の百人一首文化講演会講演録を作成し、会員に配布した。■百人一首文化講演会を開催　・時　期　 令和５年１月６日（金）・講 師　 福田 智子（同志社大学教授）　・演 題　　「百人一首とデータサイエンス」■小倉百人一首講演会を開催・時　期　　令和４年６月１２日（日）　・講 師　 太田 智絵（桑名市立大山田北小学校）　・演　題　 「特別支援教育とかるた」■津久井前企画部長保管の小倉百人一首関連資料を引き継ぐ。■支部長会議で調査研究部員の推薦を依頼する。■調査研究部会を開催　第１回:８月２３日（火）第２回:１２月４日（日） |
| 総務部 | ■**協賛募集・スポンサー開拓ノウハウづくり**・広報部と連携し、**専門事業者を活用した協賛活動に着手した**。・**名人位・クイーン位決定戦及びちはやふる小倉山杯で実践し、名人****位・クイーン位決定戦は協賛額を前年比1.5倍に拡大できた**。■主催大会の企画・推進・**全国高等学校選手権大会の運営方法見直し案を関係団体と協議を****重ねまとめあげた（活動継続中）**。・**ちはやふる小倉山杯の情報発信強化策を関係団体と連携しまとめ****あげ新たな企画を実施した**。－パブリックビューイング方式での観戦会場新設、**メディア****コンタクトによる認知度及び集客の拡大**等― |

**Ⅳ．事業の成果**

**１．会員の動向**

**表１**会員数（人）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | ２０２２年度 | ２０２１年度 | 差　異 |
| 1.正会員 | 　 ２,６９４ | ３,１９７ | * **５０３**
 |
| 2.准会員 | 　 １,７８０ | 　 ２,４８５ | * **７０５**
 |
| 　小計（1+2） | ４,４７４ | 　 ５,６８２ | * **１,２０８**
 |
| 3.賛助会員(個人) | １９８ | ２４８ | △ ５０ |
| 4.法人賛助会員\* | 　　　　１５ | 　　　 １４ | 　　　　　　１ |

\*法人会員名（順不同、敬称略）

　 ㈱奥野かるた店　 ㈱大石天狗堂　 近江神宮　　(公財)小倉百人一首文化財団

 ㈱マウビック　 ㈱ヤマネ　　 マルイト わたや 　　㈱万葉

シップス㈱ 　　 宗教法人 妙久寺　　㈱講談社　 ㈱カルチャーランド

　 Beta Computing㈱　 　　　共栄火災海上保険㈱ 文化ネット合同会社

**２．昇段者数の動向**

表２　昇段者数　　　　　　　　　　　　　（人）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段位 | ２０２２年度 | ２０２１年度 | 差　異 |
| 初段 | ２,１９２ | １,７６７ | ４１５ |
| 二段 | 　 １,０２８ | ５７８ | ４５０ |
| 三段 | 　　　５６２ | ４０９ | １５３ |
| 四段 | 　　　１２１ | 　　　　４９ | 　　　７２ |
| 五段 | 　　　　２６ | 　　　　１２ | 　　 １４ |
| 六段 | 　　　　１０ | 　　　　　０ | 　　　１０ |
| 七段 | 　　　　　０ | 　　　　　４ | * ４
 |
| 八段 | 　　　　　２ | 　　　　　１ | 　　 　　１ |
| 九段 | 　　　　　０ | 　　　　　０ | 　 　　　０ |
| 十段 | 　　　　　０ | 　　　　　０ | 　　　　 ０ |
| 合　計 | **３,９４１** | ２,８２０ | **１,１２１** |

**Ⅴ．実施事業**

**１．大会開催事業**

（１）主催大会

 　　合計18大会を開催。詳細は別紙 表３の通り。

（２）公認大会

　 各会が主催する53大会(2021年度事業延期分を含む)を公認し全国大会として開催。

詳細は別紙 表４の通り。

（３）初段認定大会

　　　各会が主催する43大会を公認。詳細は別紙 表５の通り。

**２．各種講習会開催事業**

表６　講習会開催実績　　　　　 　　　　　（回、人）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 支部 | 審判講習会 | 読手講習会 |
| 北海道・東北 | 1 回 | 6 人 |  1 回 | 25 人 |
| 関　東 | 2 |  43 | 4 |  126 |
| 甲信越 | 1 |  6 | 2 |  27 |
| 北　陸 | 2 | 21 | 11 |  59 |
| 東　海 | 3 | 34 | 5 | 112 |
| 近　畿 | 1 | 30 | 2 |  71 |
| 中　国 | 1 | 15 | 3 |  62 |
| 四　国 | 1 |  8 | 1 |  12 |
| 九　州 | 3 | 53 | 10 |  145 |
| 合　計 | 15 | 216 | 39 |  639 |

**３．表彰・資格認定事業**

(1)特別功労賞

　　　佐藤厚子　（埼玉県立不動岡高等学校）

湯田重哉　（福島県立安積黎明高等学校）

柴田隆司　（京都府立北稜高等学校）

澤田晃　　（暁高等学校（６年制））

井上文　　（鳥取県立皆生養護学校）

 (2)競技者への永世称号允許状の授与

\*2020年度に認定しましたがコロナ禍で允許状授与は本年度まで延期されていたものです。

　　　・永世選手権者　　　山下恵令（４月）

・永世女流選手権者　渡辺令恵・本多未佳・本多恭子（６月）

　　　・永世選抜覇者　　　坪田　翼（３月）

**４．機関誌「かるた展望」発行事業**

　第７５号（2022年8月発行）

　第７６号 (2023年2月発行)

**５．文化講演会の開催事業**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 第１回 | 第２回 |
| (1)日 時 | 2022年6月12日（日） | 2023年1月6日（金） |
| (2)場 所 | NUTULUCK神田北口駅前店（東京都千代田区） | 琵琶湖ホテル（滋賀県大津市） |
| (3)講 師 | 三重県桑名市立大山田北小学校太田智絵 氏 | 同志社大学文化情報学部 教授　福田智子 氏 |
| (4)演 題 | 特別支援教育とかるた | 百人一首とデータサイエンス |
| (5)視聴者 | 30人 | 60人 |

**６.文京区と相互協力に関する協定を締結**

「一般社団法人全日本かるた協会と文京区との相互協力に関する協定」を締結（５月）

**Ⅵ．総会・理事会等の開催**

**1．総会**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第9回通常総会 | 2022年６月12日 | NATULUCK神田北口駅前店（東京都千代田区） | 1,355人内、会場出席 33人委任状出席1,322人 | 1)2021年度事業報告　報告の件2)2021年度計算書類の承認を求める件3)2022年度事業計画書および収支予算書の承認を求める件**３）２０１９年度事業** |

**2．理事会**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第15回理事会 | 2022年4月23日 | 名鉄トヨタホテル(オンライン併用) | 21名内、会場出席16名web出席5名 | １）2021年度事業報告および決算書類２）2022年度事業計画書および 収支予算書３）第９回通常総会招集の件４）功労表彰５）その他報告 |
| 第16回理事会 | 2022年11月19日 | 文京スポーツセンター３階会議室 | 18名内、会場出席15名Web出席3名 | １）2022年度事業計画の進捗２）2023年度事業計画案３）2022年度重点事業の実績報告　・第３回ちはやふる小倉山杯実績と第４回大会の進め方　・全国高等学校選手権大会の開催形式見直しについて４）2022年度収支予算の進捗５）会員規程の改定６）文京区との相互協力に関する協定締結とドリームマッチ開催について |

**3．常務会**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第40回常務会 | 2022年4月3日 | オンライン | 6名 | １）第15回理事会上程資料　・2021年度事業報告、2022年度事業計画書・収支予算書他２）A級分割制導入について３）各案件報告　・第8回各会代表者会議議事　・名人位・クイーン位決定戦協賛実績　・段位制度移行の進捗　・海外かるた会からの要望への対応方針　　・高校選手権大会中長期のあり方検討の進捗　・第54回女流選手権大会開催要領 |
| 第41回常務会 | 2022年11月14日 | オンライン | 議題1)12名議題2)7名議題3),4)6名 | １）2022年度事業進捗と2023年度事業計画（拡大常務会）２）広告代理店の起用３）第16回理事会上程議題　・2022年度重点事業の実績報告　・2022年度収支予算の進捗　・会員規程の改定４）監事からの助言事項への対応について |

**4．支部長会議**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第18回支部長会議 | 2022年4月23日 | オンライン | 13名 | １）第15回理事会議事報告２）各支部活動の2021年度実績と2022年度計画、支部からの提案・要望事項３）支部会計について４）専門部からの報告・提案　　　普及指導部・競技かるた部 |
| 第19回支部長会議 | 2022年11月19日 | 文京スポーツセンター３階会議室（オンライン併用） | 14名内会場出席６名Web出席8名 | １）第16回理事会議事報告２）支部活動実績・計画の提出について３）専門部からの支部への依頼　・各支部からの調査研究部員人選・任命について　・体験会・初心者教室等の実施状況調査について４）各支部からの報告・提案 |

**5．各会代表者会議**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第９回各会代表者会議 | 2023年2月12日 | オンライン | 47名(傍聴4名を含む) | １）2022年度事業の進捗２）2023年度事業計画案　・事業計画骨子　・専門部活動計画３）その他報告４）各会からの要望・意見・質問への回答 |

以上